2020（令和4）年10月17日（月）14：00～15：30

神奈川県精神科病院協会 看護部長会研修会

日精看版ラダーの説明と活用について

精神科看護職のクリニカルラダー

一般社団法人日本精神科看護協会

本部長 中庭良枝

目　次

- 日精看の教育事業と課題
- クリニカルラダーについて
- 精神科看護職のクリニカルラダーの概要
- 精神科看護職のクリニカルラダーをふまえた継続学習（研修会）について

※精神科看護職のクリニカルラダーは、以下、
日精看版ラダーと略します。

これまでの教育事業と課題

現在の教育事業

活動理念

こころの健康を通して、
だれもが安心して暮らせる社会をつくります

理念の実現にむけて

教育目的

日精看が育成する４つの看護職像

この4つの看護職像をめざして
教育事業を展開してきました

研修会

学術
集会

精神科
認定看
護師

日精看が育成する4つの看護職像

病態を含めた対象理解ができ、対象者がその人らしい生活を送るための看護を実践できる看護職

患者の尊厳を守るための感性をみがき、自分の考えを表現できる看護職

キャリアに応じた組織の変革・発展に必要な専門的能力、対人関係能力、概念化能力を備えた看護職

精神障がい者が地域で自立した療養生活を実現・継続できるよう、地域に目を向けた看護を実践できる看護職

スタディガイドにも掲載しています

課　　題

体系化したカリキュラムがない

本部と支部の役割り分担が不明確

学びたい人が受講できる体制が不十分

本部と支部
何が違うの？

興味・関心に
偏った内容

教育事業体制の見直しを行い
看護職の継続学習を支援する

精神科看護実践の場おける
継続教育の現状と課題

職員のバックグラウンドの多様化
（バックグラウンド＝その人の背景）

- **教育背景**
  基礎教育（専修学校、短大、大学、大学院）
  基礎資格（准看護師、看護師、保健師）
  上級資格（精神科CN、精神看護CNS、他領域CN/CNS）
  その他資格（CVPPP、SST、WRAPなど）
- **臨床経験・社会人経験**
  精神科（病棟・在宅）経験
  他科での経験
  他業種での経験　　など
- **プライベートの背景**
  出産、育児でのブランク
  障がいを持ちながらの就業　など

バックグラウンドの異なる職員に対して、
新卒対象の教育体系はフィットしない。

＝何を学習・経験していったら良いのか？

卒後教育と継続教育の課題

	卒後教育の内容（例）
4月	看護倫理・看護技術 精神保健福祉法
5月	こころの理解・防衛機制
6月	セルフケア理論の活用
7月	疾患の理解・薬物療法
8月	BLS・急変対応
9月	チーム医療・リーダーシップ
10月	家族支援・精神科外来看護

卒後数年間の教育プログラムは用意されていることが多い

- 卒後教育を終えると「自己研鑽」に委ねられることが多い

その後の指針がない

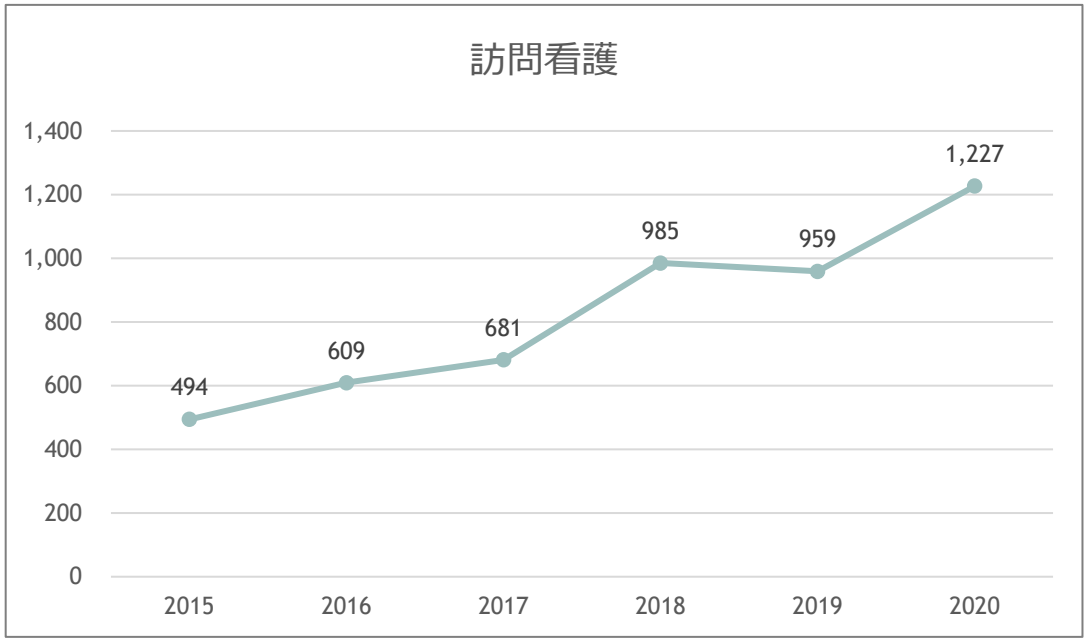
- 個人の意識に任せられる

➡提供する看護に知識・技術の差が出る
➡スキルアップを揶揄する雰囲気

組織（チーム）の
レベルアップに結びつかない
＝**悪循環**

働く場も変化している

日精看会員が所属する施設の変化



５年間で
約３倍！

- 小規模な精神科病院や訪問看護ステーションでは継続教育どころか卒後教育を企画するのも難しい
- 施設の体制によって看護職としての成長に影響が出てしまう

施設間で知識や技術に大きな差が出てしまう
＝**精神科看護全体の課題**

継続教育の難しさ

- 社会情勢の変化
- 治療法やケア方法の進化
- 社会から求められる役割の変化
- 組織から求められる能力の変化

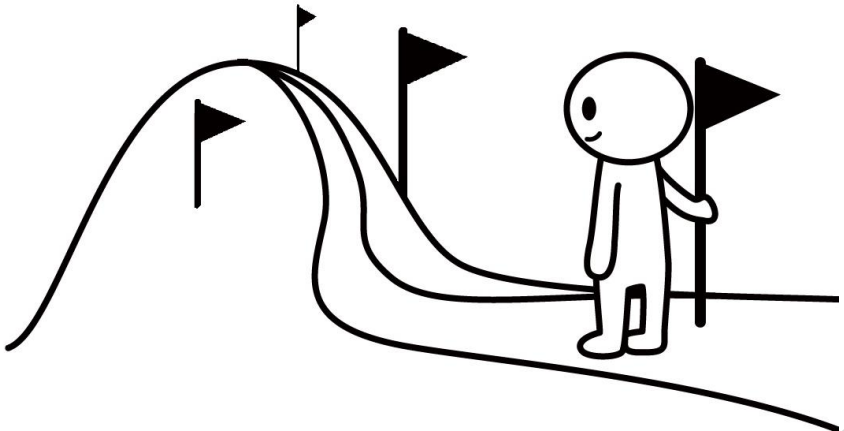
プロフェッショナルとして
常に成長していくための指針が必要

精神科看護職の成長に必要なこと

- OJTにより精神科看護職としての知識や技術、
  考え方や姿勢を身につけること
- 看護実践能力が自己および他者により適切に評価されること
- 適切な評価により、自分の看護実践の現状と課題が明確になり、
  次のステップに向けて取り組む方向性が明確であること

クリニカルラダー

クリニカルラダーについて



パトリシアベナーの言葉

看護師にとって重要なのは、
「経験年数」ではなく、
「**経験の質**」である。

- ベナーの示す５段階（経験年数によらない）

ステージ１　初心者 **Novice**	状況に関する経験がなく、対象者の表す状態からその状況を知り、臨床状況での経験を積むために原則通り行動する段階
ステージ２　新人 **Advanced Beginner**	かろうじて及第点の業務をこなすことができる段階 「繰り返し生じる重要な状況要素」に気づく（あるいは指摘により気づく）ことができる
ステージ３　一人前 **Competent**	意識的に立てた長期の目標や計画をふまえて自分の看護実践をとらえはじめる段階 現在および予測される将来の状況で何が重要かを判断できる
ステージ４　中堅 **Proficient**	状況を長期的な予測もふまえて全体としてとらえることができる段階 状況の理解は思考よりも経験によるものが多い
ステージ５　達人 **Expert**	状況について膨大な経験から瞬時に判断し、正確に問題領域を絞ることができる段階

（参考：ベナー看護論　新訳版　初心者から達人へ,著パトリシア ベナー　監訳 井部俊子,医学書院）

クリニカルラダーとは

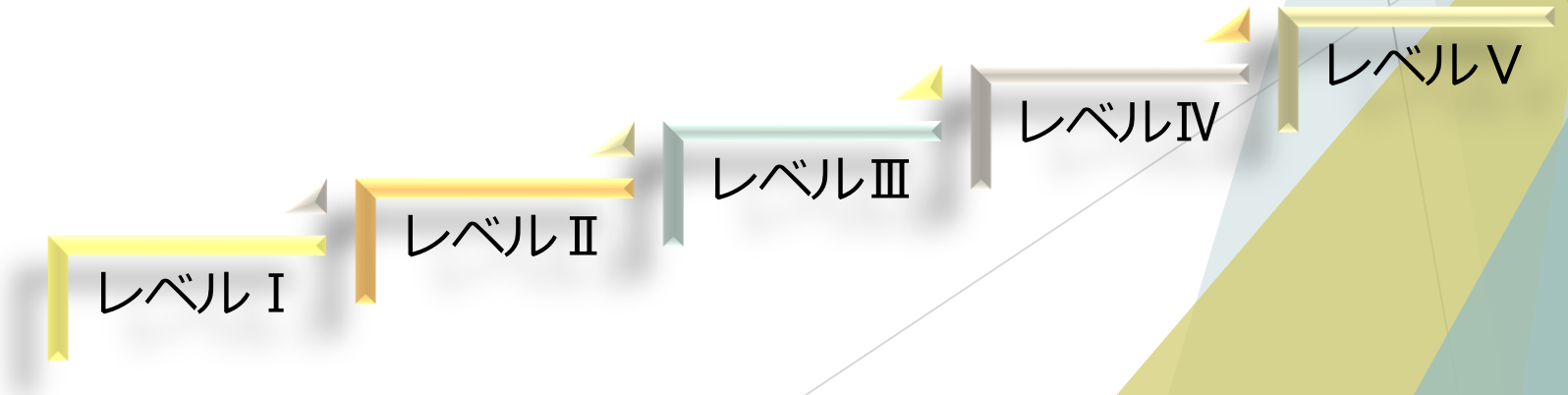
看護師のクリニカルラダーは
看護師の能力開発・評価のシステムの1つ

クリニカル ＝ 看護実践

つまり、看護師の看護実践能力を段階的に表している

公益社団日本看護協会

ラダー ＝ はしご



クリニカルラダーの本来の目的

ここまで
できてる！

このレベルを達成
するにはこの力が
足りてないな

これからこういった
力が必要なんだ

スタッフの
評価？

クリニカルラダーの誤解

スタッフの
レベル分け？

お給料の
査定？

看護者個々の成長してきた証
と
これからの成長の道しるべ

クリニカルラダーを導入する目的（メリット）

- クリニカルラダーは、自らが到達している段階や課題が確認できること、次のステップが明確であることから、計画的な能力開発につなげることができ、自己評価や継続学習の指針となる。
- 段階があがると、活動が広く深くなったり、役割が変わったりするため、仕事のやりがいにつながる。
- 教育担当者や管理者は、スタッフの人材育成や能力開発に活用することができ、組織の成長にもつながる。
- クリニカルラダーには、段階的に看護実践能力が表わされ、各段階で期待される能力が示されているため、多様なバックグラウンドをもつ看護者に対応できる。

クリニカルラダーとキャリアラダーの違い

クリニカルラダー
臨床看護の実践レベル
看護師の看護実践に必要な実践能力を段階的に表現したもの

キャリア（開発）ラダー
管理的な能力の段階や専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了看護師としての段階等を含み、そのキャリアに必要な能力を段階的に表現したもの

ケアの対象者へ安全、安心なケアを実践できる看護職の育成

↑

組織の目的

↓

看護職のキャリアを念頭に、努力する個人を支援すること

クリニカルラダー／キャリア（開発）ラダー

臨床実践能力の基本構造

- 看護ケア実践
  情報収集力・問題を明確にする力、看護計画を立案する力、看護ケアを実践する力、看護ケアを評価する力、看護ケアを記録する力
- マネジメント
  安全管理を進める力、目標管理を進める力、物品を管理する力、時間を管理する力
- 教育
  自己啓発力、指導力
- 人間関係
  患者と人間関係を築く力、リーダーシップ（メンバーシップ）、社会人としての人間力
- 研究
  研究的視点で見る力、研究活動を行う力、研究をまとめる力、研究を発表する力

（参考：目標管理とリンクした看護職キャリア開発ラダーのつくりかベナー看護論　新訳版
初心者から達人へ,著パトリシア ベナー　監訳 井部俊子,医学書院）

精神科看護職のクリニカルラダー概要

通称
日精看版ラダー

日精看版ラダーのめざすところ①

4つの看護職像に示された看護職を育成する

- 病態を含めた対象理解ができ、対象者がその人らしい生活をおくるための看護を実践できる看護職
- 患者の尊厳を守るための感性をみがき、自分の考えを表現できる看護職
- キャリアに応じた組織の変革・発展に必要な専門的能力、対人関係能力、概念化能力を備えた看護職
- 精神障がい者が地域で自立した療養生活を実現・継続できるよう、地域に目を向けた看護を 実践できる看護職

日精看版ラダーのめざすところ②

現在

施設ごとにラダーを作成
ラダーの内容やレベルの基準が施設ごとに異なる
ラダーを導入・作成していない施設もある

独自のラダー

訪問看護
ステーション

JNAラダー

ラダー
使っていない

病院

高齢者
介護施設

今後

全国のあらゆる職場で活用可能な標準化された
ラダーを用い、「日本全国どこでも精神科看護職
として成長でき、活躍できる人材」を育成する

日精看が作成するクリニカルラダーの目的

- その人に合ったスキルアップを支援すること
- 看護実践能力の適切な評価により精神科看護の質の担保および保証すること

対象となる人々に対して、安全で、安心できる
高品質な看護ケアを提供すること

日本全国どこでも！

参考：「看護師のクリニカルラダー（日本精神科看護協会版）活用のための手引き」

国際看護師協会(ICN)による臨床実践能力の3分類

	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
看護実践能力	関係性を構築する力				
	ニーズをとらえる力				
	ケアする力				
	協働する力				
	意思決定を支える力				
自己教育・研究能力					
組織的役割遂行能力					

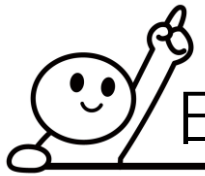
オレムの看護論（セルフケア理論）

ベナーの看護論で示されている5段階

- **関係性を構築する力**
- ニーズをとらえる力
- ケアする力
- 協働する力
- 意思決定を支える力

日精看版ラダーのみ

日本看護協会版「看護師のクリニカルラダー」



日精看版ラダー

日精看版ラダーで
オレムのセルフケア理論をベースとした理由

オレムのセルフケア理論では
「ヒトは本来自分自身の力でセルフケアを満たせる存在である」という考えがベースにある。

**自らの規範やルールを内に持ち、
それにしたがって判断・行動する状態**

＝

**セルフケア
＝自分自身のために自分で
行う諸活動の実践**

日本精神科看護協会　精神科看護の定義
「精神科看護とは、精神的健康について援助を必要としている人々に対し、個人の尊厳と権利擁護を基本理念として、専門的知識と技術を用い、**自律性の回復をとおして
その人らしい生活ができるよう支援すること**である」

★精神を病んでいても、セルフケア能力を有しており、セルフケアは回復でき、新たに獲得もできる。また、周りからのサポートを整えることでも、セルフケア不足は解消できる。そうすれば、その人らしい生活を営むことができる。この考え方は、日精看の精神科看護の定義と合致している。

臨床実践能力の構成

- 日精看版ラダーの臨床実践能力は国際看護師協会（ICN）が分類した看護実践能力、自己教育・研究能力、組織的役割遂行能力で構成した。

看護実践能力	• 高い倫理性と関係性を築けるコミュニケーション能力を基盤とし、的確な判断、正確な知識・技術に基づいた看護実践を提供する能力。
自己教育・研究能力	• 看護専門職として自己の能力開発を自らすすめられる　能力や、ケアを開発するための能力、それらを他のスタッフや学生へ教育する能力
組織的役割遂行能力	• 自分の所属する組織の中での役割を認識し、専門職として責任を果たすために安全性と経済性を考慮して　職務を遂行する能力

参考：看護管理学習テキスト第３版　人材管理論p.138-139

※梶田叡一氏：
「自己教育力」とは「自分自身で学び、成長、発展してゆける力」と定義。「自己教育は、自らの接するところ体験するところのすべてを自己の認識の糧とし、自己成長のためのきっかけとする」

「看護実践能力」を構成する５つの力

ケアの対象者が立ち会う場面（治療、生活等）において、その人らしい選択ができるための意思決定を支える

意思決定を支援する力

ニーズを把握する力

ケアの対象者をとらえ、判断し、その人に適した方略を選択する

関係性を構築する力

ケアの対象者を中心に、情報やデータを多職種間で共有し、ケアの方向性を検討、連携する

協働していく力

ケアを行う力

ケアの実施・評価を行う

精神的健康の回復・維持に重要な信頼関係の構築

日精看版ラダーの特徴

参考：公益社団法人　日本看護協会「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）活用のための手引き
2..導入・活用編　ｐ１JNAラダーを構成する４つの力

「関係性を構築する力」を入れた理由

- 精神科看護は**対人関係のプロセス**

  対象：精神的健康に向かうために援助を必要としている人
  方法：幅広い理論をもち、自分自身を意図的に利用すること

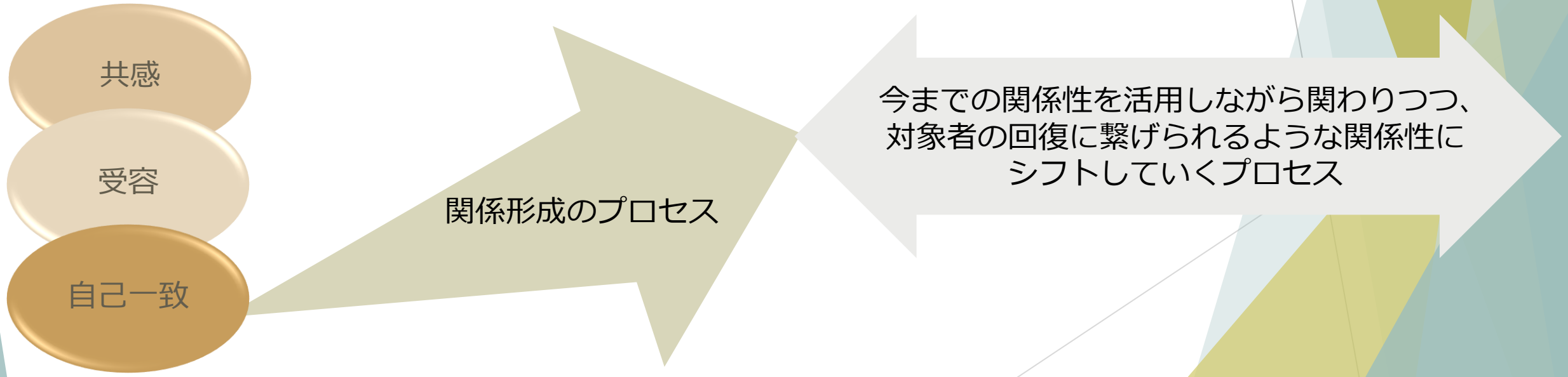
- **信頼関係が対象者の回復に影響を与える**

  精神科看護のベースには対象者との関係性がある

⇒そのため、
　日精看版ラダーに示す看護実践能力の中に
「関係性を構築する力」をあえて明文化して、
その力の成長段階を示した。

「関係性を構築する力」の成長過程

レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
対象者に関心を向け、対象者の視線や表情、雰囲気、態度から相手の思いを察知し、工夫しながら関係性をつくることができる	受容的、支持的な態度でかかわり、対象者から信頼してもらえる関係性をつくることができる	対象者の対人関係能力が高められるよう、看護職自身の抱いた疑問や異和感、感情を意図的に利用することができる	複雑な状況下にある対象者らと、相互にゴールを共有し、協働を意識した関係性を築くことができる	複雑な状況下にある対象者らと、自律に向けた関係性を深めることができる



レベルⅠ～Ⅲ【ロジャースの3原則】

レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ
対象者に関心を向け、対象者の視線や表情、雰囲気、態度から相手の思いを察知し、工夫しながら関係性をつくることができる。	受容的、支持的な態度でかかわり、対象者から信頼してもらえる関係性をつくることができる。	対象者の対人関係能力が高められるよう、看護職自身の抱いた疑問や異和感、感情を意図的に利用することができる。

傾聴に必要な3原則

1.共感的理解 共感

相手の話を、相手の立場に立って、相手の気持ちに沿いながら理解しようとすること。

2.無条件の肯定的関心 受容

相手の話を善悪の評価や好き嫌いの評価をせずに聴くこと。開いての話を否定せず、なぜそのように考えるようになったのか、その背景を肯定的な関心を持って聴くこと。

3.自己一致 自己一致

聴き手が相手に対しても、自分に対しても真摯な態度で、話しが分かりにくい時は分かりにくいことを伝え、真意を確認すること。

レベルⅣ・Ⅴ【オープンダイアローグ】

レベルⅣ	レベルⅤ
複雑な状況下にある対象者らと相互のゴールを共有し、協働を意識した関係性を築くことができる。	複雑な状況下にある対象者らと自律に向けた関係性を深めることができる。

・患者さんの合意と拒否権を尊重し、決定は常に当事者参加で行う

・「答えを出すこと」ではなく、協力して対話を続けることをめざす
→多様性を尊重して、「違い」を深堀していく

・「議論」「説得」はしない→選択肢を広げる

・テーマに関する「正しい知識」や「一般的事実」ではなく、
話し手の主観的体験を共有する

・誰かが話しているとき、他の人はむやみに遮らず、じっくり聞く
（相槌はしっかりと）

複雑な状況下とは

患者

- 精神症状
- 心理状態
- セルフケアレベル
- 患者の価値観や知識
- 疾患や性格

患者ー看護師関係

- 相性や信頼関係
- お互いの期待
- 傷つき
- 不信感
- 意識のずれ

看護師

- 年齢
- 性別
- 価値観
- 臨床経験
- 仕事に対する考え方

臨床状況

- 看護体制
- 看護者数
- 病棟機能
- 病棟構造
- 入退院数
- 医師の関係
- チームワーク

事例がもつ4局面／宮本真巳

自律に向けた関係性を深める

対象者の望む生活にむけて、
その人のもつ力を最大限に発揮できるような
自律に向けた関係性を対象者とともにつくりあげる。

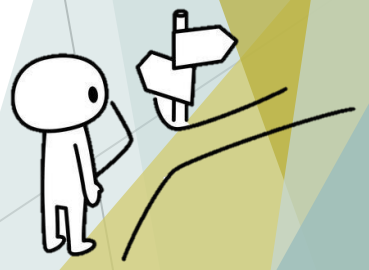
失敗しても大丈夫
安心して失敗できる

対象者が
安心して自己決定していけること

自己決定した内容を
最大限に支援

イコール

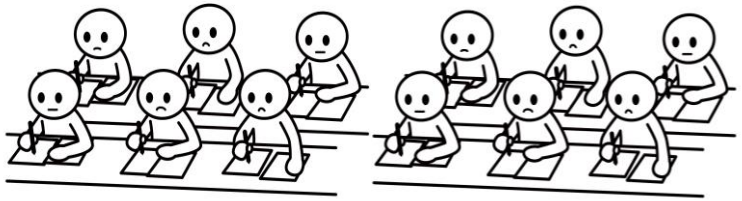
自律性の回復



レベルⅤ

複雑な状況下にある対象者らと自律に向けた関係性を深めることができる

日精看版ラダーをふまえた
継続学習（研修会）について



これまでと何が違うのか？

日精看の研修会が
変わるの？

ラダーを導入して
いないと研修会が
受けられないの？

精神科看護職の成長に必要な学習内容

クリニカルラダーを活用することによって、
今の自分に必要な知識や技術が何かが見える
研修会の選び方が変わる（明確になる）

レベルⅤ

レベルⅣ

レベルⅢ

レベルⅡ

レベルⅠ

この力をもっと高めたい！
それにはこの学習をしてみよう！

バランスよく学ぶ

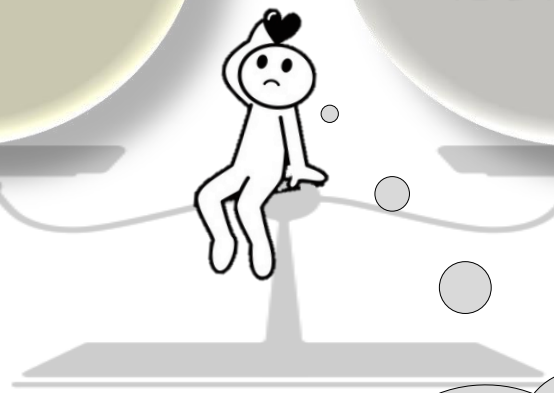
上司からの
すすめ

最近●●って
流行ってるよね

●●先生の
話が聞きたい！

興味・関心
による学習

自分の
実践力に
必要な学習



今の自分には
こんな知識が
必要だ！

研修会の選択の仕方

パターン１：自分の実践力から

①ラダーの到達目標を参考に自分のレベルを確認する

②対応するレベルを縦に見ながら今の自分に必要な実践力や強化したい内容は何か確認する

③そこに対応している研修会には何があるか？

このプロセスで研修会の選択をすることで、
なぜこの研修会を受講するのか？この研修で学びたいことは何か？
といった受講の目的が明確になります。

パターン２：興味・関心から

①関心のある研修を探す

②この研修会はどのような力をつけるための研修会か、
研修会に対応している
実践力を確認する

←ここでラダーを使う

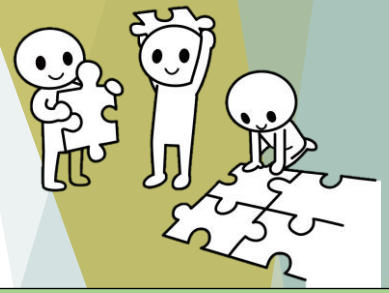
研修会の確定

パターン１：自分の実践力を確認して研修会を選択する

ステップ❶ 到達目標を確認しながら自分の立ち位置を見つける

ここまでは
できてるな

今の自分は
ここかな？



	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
到達目標	・基本的な看護手順に従い、必要に応じて助言を得ながら、安全に看護を実践できる。 ・部署のマニュアルを活用し、看護実践できる。 ・他者に相談しながら、所属してい部署に特徴的な知識や技術を主体学習できる。 会人として、病院組織の一員でことを理解し、職場のメンバーての役割を全うできる。	・根拠をもって判断した看護実践ができる。 ・対象者の希望を踏まえた、看護計画に基づいて、自立した看護を実践できる。 ・疾患や治療の理解を深め、看護に活かせるよう主体的に学習できる。 ・判断に迷うときは、他者に自ら相談し、メンバーシップを発揮して看護を展開できる。 ・対象者とのかかわりの中で自身の課題を明らかにすることができる。 ・所属施設の理念や方針を理解し、組織の一員として、自覚ある行動ができる。 ・コスト意識を持つことができる。	・対象者の個別性を理解し、状況に応じた看護を実践できる。 ・自身の課題を克服しようと取り組みつつ、強み、弱みを意識して、自身の持ち味を活かした看護ができる。 ・看護実践におけるモデルとなり、メンバーに対して教育的なかかわりができる。 ・組織の一員として、無駄なく効果的に業務を行うために、メンバーや多職種と協働できる。 ・より専門的、広い視野で必要な知識の獲得に向けて行動できる。 ・部署の目標達成に取り組むことができる。	・全人的に対象者をとらえ、幅広い視野と予測的な判断をもって、対象者中心の看護を実践できる。 ・対象者の満足度を高めるために、チーム全体の動きを把握し、リーダーシップを発揮した行動ができる。 ・医療全体を理解するために幅広い視野で必要な知識を獲得できる。 ・精神科医療の現状をふまえて、自分の役割を理解して、業務が効果的、かつ経済的にも効率よく行えるようスタッフに指導的にかかわることができる。 ・組織や部門の理念と方針をふまえて自己の役割を考え、主体的に行動できる。	・より複雑で対応困難な状況において、最良な手段を選択し、対象者の満足度、QOLを高められるよう高度な看護を実践できる。 ・役割モデルを意識しながら指導に当たり、現状にとどまらず、対象者のために看護を追求し続ける姿勢を持ち、創造的な看護実践ができる。 ・対象者を尊重できる看護師の育成に携わり、広い視野で教育的な役割を取ることができる。 ・精神科医療の現状、および組織や部門の理念や目標を理解し、積極的に職場の改革に参画し、看護の質向上のために変革的な行動ができる。

ラダーの上段「到達目標」の欄を横に見ます

ステップ❷ 自分のレベルを縦に見て、今の自分に必要な実践力や強化したい実践力が何かを確認する

			レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ
看護実践能力	C	**目標 ケアを行う力**	**対象者の特徴や意向を意識しながら、安全かつ確実に日常的なケアを実施することができる**	**看護計画を意識して必要なケアを実施し、対象者の反応を確認して看護計画の評価および[illegible]ができる**	**精神状態や治療を理解し、対象者の個別性に合わせたケアを提供し、看護計画を評価考察し、修正が**	**対象者の全体像から、提供されて[illegible]より質の高いケアを行うロールモデ**
	1	日常生活のケア	□対象者の意向を考慮して、基本的な日常生活援助を根拠に基づき安全に実施できる。	□対象者の状況に応じて、生活拡大を図るために、対象者と一緒に自立度を確認しながら、生活[illegible]の課題を把握し、試行的介入をしながらケアの方法を探り[illegible]実しながら実施できる。	□個別性のある看護計画にもとづいて、対象者のセルフケア能力を伸[illegible]することを意識して、対象者の思いや理解度を考慮した[illegible]・指導を実施する。また、評価により効果的だった[illegible]りを指針として看護を展開できる。	□対象者の生活に関する課題や症[illegible]対象者の能力に合わせ、適切なケ[illegible]し、定期的な評価で援助の意味を考[illegible]護スタッフのロールモデルとなることが[illegible]
	2	精神面のケア	□思考、知覚の障害、意欲低下、不安、希死念慮、怒り、攻撃、暴力、多訴、対人操作、不眠など、精神症状を正しく理解し、対応できる。	□精神症状の要因を精神疾患のみな[illegible]、器質的な要因や生活・環境的な要因に配慮し、看護[illegible]則ってケアを実施することができる。 □その反応から症状の査定とケアの評価をおこなうことができる。	□対象者が調子を崩したり、危機的な状況に陥らないように、その出来[illegible]と、そのときの知覚について整理し、社会的支持と[illegible]機制について対象者が可能な対応を対象者と[illegible]出すことができる。	□対象者が自ら精神症状をマネジメ[illegible]い生活にむけて、自分の力や課題、環境を意識して行動できるようかかわ[illegible]
	3	心身両面からのケア	□身体疾患に関する既往歴、現病歴、治療（服薬内容や医療的処置）を理解し、必要な診療の補助ができる。	□精神疾患と身体疾患の関連、病気の経過や治療による影響を考え、病歴や対象者の訴えのみに惑わされず、その他の病因も考慮してアセスメントし、対象者の状況をみながらケアすることができる。	□対象者の自覚症状や病気の捉え方について精神・身体の両側面からアセスメントしながら、療養上の課題を明[illegible]かにしてケア[illegible]つなげることができる。 □身体[illegible]の重要性を理解し、精神面への[illegible]ての身体ケアも実践することができる。	□身体疾患の状況をアセスメントし[illegible]処[illegible]
	4	内服にかかわるケア	□定時薬について、作用と副作用を意識して観察・対応できる。 □頓服薬使用時に対象者の状態像を報告し、効果と副作用の有無を観察、報告できる。	□対象者に処方されている薬が何を目的として処方されているのかを理解し、その目的に合わせて対象者の変化を観察、記録、報告することができる。 □また、頓服薬の必要性を判断し、内服について対象者に説明し、使用できる。	□定時薬の作用、副作用を意識して[illegible]の生活に合わせた薬物療法の援助[illegible] □頓服薬は使用の妥当性を判断し[illegible]合わせた説明や使用ができる。	
	5	治療プログラムとケア	□グループ療法、薬の相談、作業療法、デイケア、訪問看護、断酒会等に参加し、それぞれの特徴や意味について理解できる。	□対象者にとって治療プログラムがどの[illegible]味を持つのか考えながら、一緒に参加することが[illegible]。	□対象者の治療的プログラムへの参[illegible]能やその障害の程度を確認し、指[illegible]アにつなげることができる。	
	6	緊急性の高い状況に対応する力	□対象者や他の安全が保てない状況や緊急性のある状態を発見し、ただちにリーダーに報告し、指示にしたがって行動できる。	□緊急性のある状態を発見し、何が起きているか判断し応援を呼び、自立して対応できる。	□緊急性のある事態が起こった際に、メンバーを指導しながら対応できる。	□緊急性[illegible]予測された[illegible]げるよう対応する。また、緊急事態に[illegible]ながら対応できる。
	7	行動制限のケア	□精神保健福祉法を理解し、行動制限のマニュアル等を活用しながら、やむを得ない行動制限の場面においても対象者の尊厳を損なわずに、安全に過ごせるような看護を実践できる。	□対象者の行動制限において責任をもって安全な対応ができる。また、行動制限を最小限にするための、よりよい看護についても意図的に実施できる。	□対象者の行動制限の目的と方法が適切であるか、対象者の保護と治療の視点から考え、必要な対応の提案、実施ができる。	□行動制限や処遇の適切性について様々な視点で査定でき、対象者を[illegible]他者に提起してディスカッション、変更[illegible]
	8	家族看護	□対象者の家族構成や形態、家族員の健康状態や対象者との関係について話をきくことができる。	□対象者の家族内での役割や家族内の[illegible]関係、コミュニケーションの特徴等を把握し、どのような葛藤を抱えているのかをアセスメントできる。	□対象[illegible]と家族との間にジョイニングし、ラポールを確立する。家族関係のパターンや交流の仕方を把握し、家族の対応状況と[illegible]の課題をアセスメントできる。	□家族が現在どのように機能し、うま[illegible]のような場合か、家族が望む変化な[illegible]メントをし、動機づけしながら目標を設[illegible]
	9	説明責任を果たす	□行おうとするケアについて、対象者が理解できるように説明をする必要性を理解できる。	□行うケアや行われている治療について、対象者が理解できるよう、自分の言葉で説明することができる。	□対象[illegible]や家族の思いを受け止めながら、状況や疾患を受け入れられるように知識や情報を提供できる。	□対象者らの希望に添えないときで[illegible]な情報の開示と、十分な説明を行い内容を確認することができる。
	D	**目標 協働していく力**	**対象者にどの職種がかかわっているかを知り、それぞれの職種の役割を理解し、自らの役割を考え、行動できる。**	**対象者にとって必要な職種を特定し、必[illegible]な情報を共有する際に、自ら意見を述べることができる。**	**対象者を中心に、家族や他の職種とタイミングよく連携することができる。**	**多職種で目標を共有し、役割分[illegible]う主体的にかかわることができる。**

縦にみる

この力が必要だな

ステップ❸ 自分の実践力を養うために、どのような研修会が活用できるか？

			レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ
看護実践能力	4	内服にかかわるケア	□定時薬について、作用と副作用を意識して観察・対応できる。 □頓服薬使用時に対象者の状態像を報告し、効果と副作用の有無を観察、報告できる。	□対象者に処方されている薬が何を目的として処方されているのかを理解し、その目的に合わせて対象者の変化を観察、記録、報告することができる。 □また、頓服薬の必要性を判断し、内服について対象者に説明し、使用できる。	□定時薬の作用、副作用を意識してモニターし、対象者の生活に合わせた薬物療法の援助ができる。 □頓服薬は使用の妥当性を判断し、対象者の個別性に合わせた説明や使用ができる。	
		学習内容 研修会	(43)向精神薬の基礎知識(オンデマンド研修) 向精神薬、抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、睡眠薬、抗てんかん薬 向精神薬の作用と副作用について理解し、薬物療法を受ける患者の支援につなげる (33)統合失調症の理解とケア 統合失調症の病態、診断、治療の基礎を学び、病態理解に基づいた看護ができる (34)気分障害の理解とケア 気分障害の病態、診断、治療の基礎を学び、病態理解に基づいた看護ができる (35)発達障害の理解とケア 発達障害の病態、診断、治療の基礎を学び、病態理解に基づいた看護ができる (36)パーソナリティ障害の理解とケア パーソナリティ障害の病態、診断、治療の基礎を学び、病態理解に基づいた看護ができる (37)摂食障害の理解とケア 摂食障害の病態、診断、治療の基礎を学び、病態理解に基づいた看護ができる (38)認知症疾患の理解とカンフォータブルケア 認知症の病態、診断、治療の基礎を学び、病態理解に基づいた看護ができる (39)アディクションの理解とケア アディクションの病態、診断、治療の基礎を学び、病態理解に基づいた看護ができる (41)多飲水・水中毒の理解とケア 多飲水・水中毒の病態、診断、治療の基礎を学び、病態理解に基づいた看護ができる		(43)精神科薬物療法を受ける患者の看護(オンデマンド研修) 患者の生活に合わせた薬物療法の支援を行うためのケアの視点やケアの工夫を学ぶ	
		治療プログラムとケア	□グループ療法、薬の相談、作業療法、デイケア、訪問看護、断酒会等に参加し、それぞれの特徴や意味について理解できる。	□対象者にとって治療プログラムがどのような意味を持つのか考えながら、一緒に参加することができる。	□対象者の治療的プログラムへの参加状況から、生活能やその障害の程度を確認し、個々の生活を考慮したケアにつなげることができる。	
		学習内容 研修会		(51)社会生活技能訓練(SST)の基本的知識と看護への活用(集合研修／演習)レベルここでよいか？ SSTの基本的な知識を身につけ、対象者の生活支援につなげる (52)認知行動理論に基づく(精神看護過程～認知行動療法(CBT)の基本と進め方～(集合研修／演習)レベルここでよいか？ 認知行動療法(CBT)を実践するための基礎知識・アプローチ方法・認知行動理論を活かした看護過程・認知行動療法の演習		

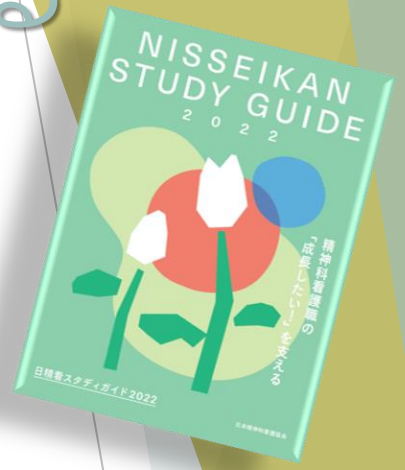
この実践力の強化には

この研修会が役立つ

この実践力の強化には

これらの研修会が役立つ

パターン２：興味・関心から研修会を選択する



ステップ❶

研修会一覧から自分の受講したい研修会を探す

NO.	研修会名	ねらい	開催方法 日程	受講料
1	コミュニケーションの基本	受容・傾聴・共感など、コミュニケーションの基礎をもとに演習をとおして、日々のかかわりを振り返る	●月●日 集合研修	¥●
2	精神科看護に必要な コミュニケーションスキル	精神科看護におけるコミュニケーションスキルを学び、患者ー看護者関係の構築につなげる	Web	¥●
3	プロセスレコードの 活用方法	プロセスレコードを用いて自らのコミュニケーションスキルを振り返り、精神科看護への自己活用を考える	Web	¥●
4	自 ア		●月●日 集合研修	¥●
5	援 マ		●月●日 集合研修	¥●

これまで一般診療科で勤務をしてきたけど、
育休明けで精神科の訪問看護ステーションに勤務することになった。
利用者さんとうまくコミュニケーションがとれるか心配・・・
コミュニケーションの研修を受けておきたいな

ステップ❷

ラダーを活用して
選択した研修会がどの実践力に位置づいているか確認する

A	目標 関係性を構築する力	対象者に関心を向け、対象者の視線や表情、雰囲気や態度から相手の思いを察知し、工夫しながら関係性をつくることができる。	受容的、[illegible]から信頼して[illegible]	対象者の対人関係能力が高められるよう、自身の抱いた疑問や異和感、感情をその場でフィードバックすることができる。
	関係構築	□普段のかかわりの場面から、対象者のペースを尊重し、脅かさずに一緒に過ごすことができる。 □対象者の訴えを否定せずに聴き、対象者の体験を理解しながら、あるがままを受け入れることができる。	[illegible]の背[illegible]として何とか[illegible]できる。 □対象者の年齢や状況、疾患の特徴に応じて、かかわるタイミングをはかり、対象者を尊重して対話ができる。	□対象者と対象者をとりまく人々のできていること[illegible]かな変化に気づき、対象者に肯定的にフィード[illegible]り、心配していることや、気にかけていることや看[illegible]情を言葉にしてフィードバックすることができる。 □看護者自身が感情や行動を振り返る機会を[illegible]隔てなくかかわることができる
I	学習内容 研修会	(1)コミュニケーションの基本(集合研修／演習) 受容・傾聴・共感など、コミュニケーションの基礎をもとに演習をとおして、日々のかかわりを振り返る (2)精神科看護に必要なコミュニケーションスキル(オンデマンド研修) 精神科看護におけるコミュニケーションスキルを学び、患者ー看護者関係の構築につなげる		(6)ナラティブ・アプローチの活用(集合研修) 対象者の語りに耳を傾け、その語りから対象者の[illegible]える (7)トラウマ・インフォームドケア(集合研修) トラウマを理解し、TICを実践するための組織的な[illegible]学ぶ。 (8)対話で患者を支えるオープンダイアローグ(集[illegible]フィンランドで実践されている統合失調症患者を[illegible]治療的介入方法であるオープンダイアローグの[illegible]論的背景、手法を学ぶ
		(3)プロセスレコードの活用方法(オンデマンド研修) プロセスレコードを用いて自らのコミュニケーションスキルを振り返り、精神科看護への自己活用を考える		
			(4)自己表現が楽になるアサーション入門(オンデマンド研修) アサーションの定義や方法をふまえ、自分も開いても大切にする自己表現、アサーションスキルを習得する	
			(5)[illegible]	

こうなりたい！

私が選んだ研修会

Q＆A

Q.日精看版ラダーを導入していないと日精看の研修会は受講できないのか？

A・できます。

ラダーを導入していなくても日精看の研修会は受講できます。

Q.自分のレベル以外の研修は受講できないのか？

A.できます。

自分のレベル以外の研修会も受講できます。

それぞれの特徴は？？

・支部の研修
・本部の研修
・オンライン研修（オンデマンド研修）

同じ地域の看護職が集まる

- 地域の文化や社会資源など共通認識がある
- 演習やディスカッションにより、
  知識や技術をより実践に活かせる研修会
- 横のつながりをもちやすい

この事例で活用できる社会資源って
うちの地域にどんなのがある？

〇〇さんの施設のラダー
参考にさせてもらえますか？

全国から看護職が集まる

- 全国から参加者が集まるので、
  全国的な標準や動きを確認できる

地域包括ケアシステムの
動きは全国的にどんな感じ？

- 職能団体の役割である政策や診療報酬に関連した研修会

医療安全管理者
養成研修会

- 資格認定に関わる研修会

精神科認定看護師
養成研修会

オンライン研修（オンデマンド研修）

インターネットがあればいつでもどこでも受講できる

・精神科看護実践に必要な基礎知識を学習できる

ライブ配信	リアルタイムに配信され、実際に講師が映像を通じて研修してくれる方法です。 不明点や疑問があれば、音声やチャットを使ってその場で質問ができ、グループディスカッションも可能です。
オンデマンド配信	あらかじめ録画しておいた動画や教材を配信する方法です。 録画配信型は場所・時間問わず視聴でき、繰り返し視聴もできます。ただし、録画配信ですので、講師への質問やグループディスカッション、ロールプレイングはできません。

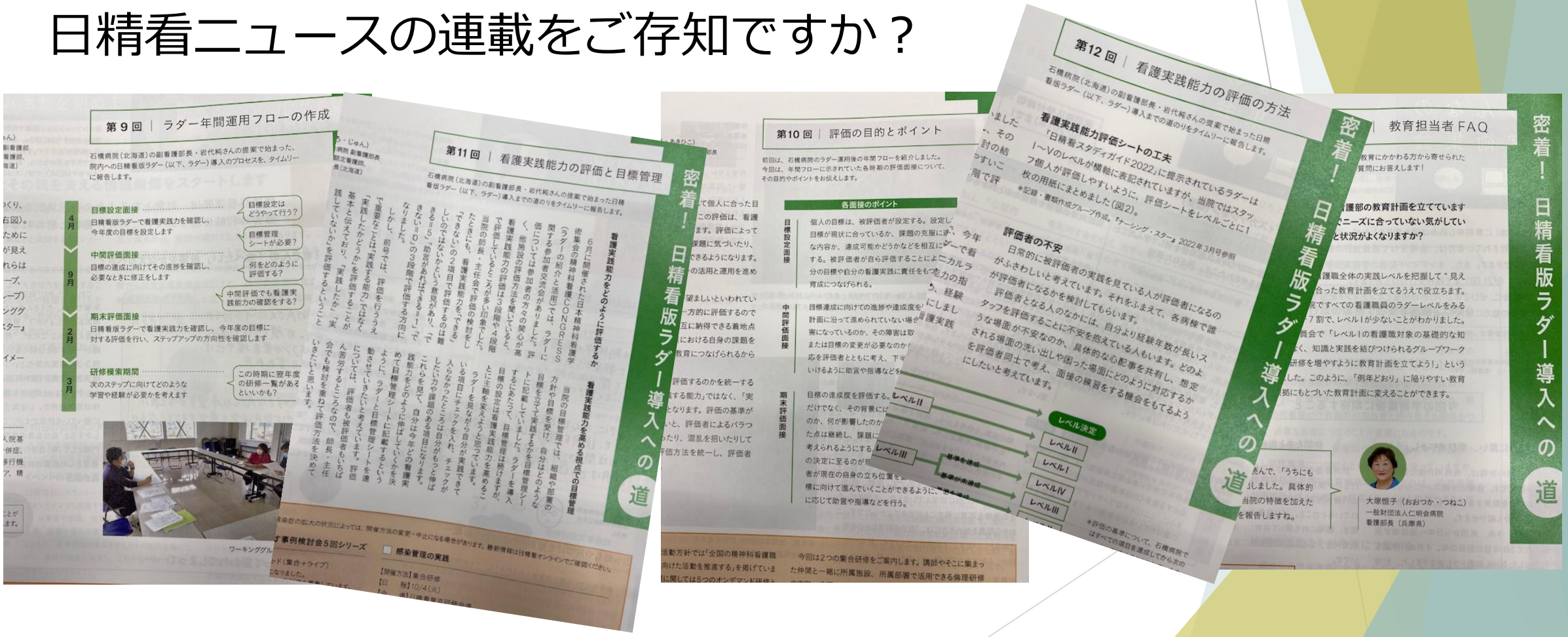
オンデマンドで基礎知識を学習 → 実践の場で知識を活用 → 知識と実践を合わせて集合研修やライブ配信でディスカッション → より実践が高まる

精神科看護職のクリニカルラダーと
あわせて日精看の研修会をご活用ください

日精看公式LINE

日精看版ラダーの導入や活動のヒントとなるもの

日精看ニュースの連載をご存知ですか？



日精看版ラダーの導入や活動のヒントとなるもの

第29回日本精神科看護専門学術集会 in 島根県

2022年11月19日（土）～11月20日（日）くにびきメッセ（島根県松江市）

→特別企画１にて

「精神科看護職のクリニカルラダー（日精看版ラダー）～評価編～」

にぜひご参加ください。LINEでもインフォメーション中！

10月10日　世界メンタルヘルスデー　東京タワーライトアップ